

序

厚生省心身障害研究班に含まれる「Spina bifida とその周辺疾患の診断と治療」に関する研究グループの昭和52年度における研究テーマと分担研究者はつきのごとくである。

I 新生児の治療に関する研究

- 1) 早期閉鎖術の問題点と改良, 高橋英世(千葉大学,小児外科助教授)。
- 2) 新生児期の治療に関する研究、水頭症の診断・治療に関する研究, 喜多村孝一(東京女子医大教授,脳神経センター所長)
- 3) 神経症状の診断方法に関する研究, 山下武広(千葉市立病院,整形外科医長)。
- 4) 脊髄々膜瘤の病変レベルと神経症状、ならびに予後について, 山口和郎(横浜市立大,脳神経外科助教授)。

II 二分脊椎児の整形外科的治療およびリハビリテーションに関する研究。

- 1) 二分脊椎児の療育, 齊藤篤(国立下志津病院,整形外科医長)。
- 2) 二分脊椎児の運動発達, 陣内一保(神奈川県立こども医療センター,リハビリテーション科部長)。
- 3) 二分脊椎児の股関節変化とこれに対する手術療法ならびにその移動能力に及ぼす影響について, 井沢淑郎(神奈川県立小児医療センター,整形外科部長)
- 4) 変形足における Selective muscle stimulatim, 山根友二郎(帝京大学,整形外科助教授)。
- 5) 二分脊椎患者の装具治療, 渡辺英夫(熊本大学,整形外科助教授)。
- 6) 二分脊椎患者の歩行障害に関する研究, 高橋勇(独協医大,リハビリテーション科教授)。
- 7) 二分脊椎児の教育の現状と早期リハビリテーションの必要性, 村上白土(村上整形外科院長)。

III 二分脊椎患者の尿路管理に関する研究。

- 1) 二分脊椎に伴う神経因性膀胱機能障害児に対する尿路管理について, 大田黒和生(名古屋市立大学,泌尿器科教授)。
- 2) 二分脊椎患者の尿路異常に対する治療法の検討, 今林健一(東北大学,泌尿器科講師)。
- 3) 二分脊椎患者の幼小児期の尿路管理, 島崎淳(千葉大学,泌尿器科教授)。

IV 周辺疾患の診断と治療に関する研究。

- 1) 二分脊椎に伴う脊柱変形の進行様相に関する研究, 松野誠夫(北海道大学,整形外科教授)。
- 2) spinal dysraphism に関する研究, 井上駿一(千葉大学,整形外科教授)。
- 3) 脊髄障害をともなった先天性脊椎奇形の成因に関する研究, 小野村敏信(大阪医大,整形外科教授)
- 4) 先天性側彎症に関する研究, 山内裕雄(順天堂大学,整形外科助教授)。
- 5) 腰仙部潜在脊椎披裂および腰仙部椎弓核癒合率について, 竹光義治(旭川医大,整形外科教授)。
- 6) 脊髄障害をともなった脊椎奇形の成因と治療の研究, 山本博司(徳島大学,整形外科助教授)。
- 7) 先天性側彎性発生に関する全国調査, 大木勲(自治医大,整形外科講師)。
- 8) 中枢神経障害をともなった脊椎奇形の研究, 村地俊二(愛知県心身障害者コロニー病院院長)。

本報告書はこれら研究成果をまとめたものであり, いまだ未知の部分の多いわが国における本症の実態

を示す注目すべき知見が含まれている。

主任研究員 井上 駿 一

(千葉大学整形外科教授)

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

序

厚生省心身障害研究班に含まれる「Spina bifida とその周辺疾患の診断と治療」に関する研究グループの昭和 52 年度における研究テーマと分担研究者はつぎのごとくである。